2026年度

郡山健康科学専門学校
講義概要

理学療法学科
1年生

学校法人こおりやま東都学園

基礎分野

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
法学	菅原　好秀	笹島

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	1	後期	15(30)	講義	2

【授業の概要・目的】

単なる日本国憲法を前提とした法学的知識を習得するにとどまらず、医療の専門職として、現代の医療の法制度の現状と課題について、人権における法学的視点から問題点を発見し対応ができることを目的とします。

【学習目標(到達目標)】

①日本国憲法と医療職との関係性について説明することができる。
②医療の人権問題について、法学的視点から問題点を発見し対応ができる。
③法体系全体を、判例を踏まえて医療の視点から説明することができる。
④現代医療の課題について、法学的視点から問題点を発見し対応ができる。
⑤医療現場における具体的事例に対し、法学的根拠に基づいた対応ができる。

【受講して得られる力】

論理的思考力
問題解決力
専門職としてのｽｷﾙ・意識
創造的思考力
コミュニケーションスキル

【履修上の注意】法律を自らの力で考え貫く学生を望みます。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	ガイダンス	日常における法とのかかわり、法の機能・分類、法の歴史と重要性を、事例とともに理解する。	個人・グループ
2	人権総論と人権の享有主体性	人権の歴史と医療との関係性について理解する。	個人・グループ
3	人権の妥当範囲と基本的人権の限界	公共の福祉と医療との関係性について、判例とともに理解する。	個人・グループ
4	包括的権利と幸福追求権	自己決定権と医療との関係性について理解する。	個人・グループ
5	精神的自由権と経済的自由権	表現の自由と医療との関係性について理解する。	個人・グループ
6	社会権と生存権	生存権と医療との関係性について理解する。	個人・グループ
7	受益権と国家賠償請求権	国家賠償請求権と医療との関係性について理解する。	個人・グループ
8	統治機構における国会・内閣・裁判所	統治機構と医療との関係性について理解する。	個人・グループ
9	地方自治と住民自治・団体自治	地方自治と医療との関係性について理解する。	個人・グループ
10	憲法改正と憲法保障	憲法保障と医療との関係性について理解する。	個人・グループ
11	憲法判例と医療	憲法における医療の裁判事例について理解する。	個人・グループ
12	医療とリスクマネジメント	医療事故とリスクマネジメントについて理解する。	個人・グループ
13	医療と法制度の現状	医療と法制度の現状について理解する。	個人・グループ
14	医療と法制度の今後の課題	医療と法制度の今後の課題について、事例とともに理解する。	個人・グループ
15	まとめ	憲法および法学の授業を振り返り、法学と医療の全体像を理解する。	個人・グループ

期末試験	後期期末試験	評価方法	受講態度 30%
			筆記試験 70%

【教科書】	渡辺信英編『日本国憲法　人権と福祉』(南窓社)
【参考書】	講義において適宜指示します。

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】教科書の該当する項目を熟読し、テーマの活用について考えて下さい。

【本講義に関しての質問先】	科目責任者	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
医療倫理 ※ 実務経験のある教員の授業科目	笹島　美沙希 障がい児入所施設・重症児通所支援事業所（理学療法士）6年	笹島

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数（時間）】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	1	後期	15(30)	講義	2

【授業の概要・目的】

医療専門職に求められる行動の自律を理解するため，社会環境の変化と技術の進展に伴う医療，福祉，および研究における倫理，並びに倫理原則について学ぶ．

【学習目標（到達目標）】

① 各授業のテーマについて我が国の現状を説明できる．
② 各授業テーマについてどのような課題があるのか説明できる．
③ 各授業テーマの課題に対する自分の考えを述べることができる．

【受講して得られる力】

専門職としてのスキル・意識
論理的思考力
考え抜く力

【履修上の注意】 配布資料，ノートを持参すること．

回数	授業のテーマ（担当教員）	授業の内容・目標（使用教材等）	授業方法
1	倫理とは	生命倫理の今日的課題について考える． 生命倫理の基本原則について説明できる．	個人
2	インフォームドコンセント	臨床現場における医療者と患者関係について考える． 守秘義務について説明できる．	個人
3	医療倫理	医療機関における臨床倫理について考える． 医療倫理の重要性について説明できる．	個人
4	出生前診断	着床前診断，出生前診断について考える． 性別の選択，人工妊娠中絶の現状について説明できる．	個人
5	生殖補助医療	生殖補助医療技術について考える． 生殖補助医療技術の問題点について説明できる．	個人
6	遺伝子・ゲノム医療	遺伝子・ゲノム医療について考える． 遺伝子・ゲノム医療の課題について説明できる．	個人
7	臓器移植	臓器移植について考える． 子供の臓器提供の現状について説明できる．	個人
8	高齢者の医療，福祉	高齢者の医療と福祉について考える． 高齢者の医療と福祉をめぐる課題について説明できる．	個人
9	エンドオブライフ・ケア	緩和ケアについて考える． 安楽死・尊厳死の現状について説明できる．	個人
10	救急医療・災害医療	救急医療・災害医療における医療倫理について考える． トリアージについて説明できる．	個人
11	ロボット・AI	医療におけるロボットとAIについて考える． マインドリーディングとプライバシーについて説明できる．	個人
12	医学研究	動物・ヒトを対象とした医学研究について考える． 科学者の行動規範，不正行為，利益相反について説明できる．	個人
13	医療情報	医療情報の保護と共有について考える． 医療情報の特性と範囲について説明できる．	個人
14	公衆衛生	ヘルスプロモーションの視点から感染症対策について考える． 公衆衛生について概要を説明できる．	個人
15	医療とジェンダー	医療とジェンダーについて考える． ジェンダーの概念について説明できる．	個人

期末試験	筆記試験	評価方法	レポート 70%	受講態度 10%
			小テスト 20%	

【教科書】	特に指定しない．
【参考書】	特に指定しない．

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 各授業テーマの要点を整理する（課題）

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
社会福祉学	阿部　正孝	川﨑

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	1	前期	15(30)	講義	2

【授業の概要・目的】

私たちが過ごしやすい社会を作り出すために求められている社会福祉について学ぶ.

【学習目標(到達目標)】
①環境問題を説明できるように学ぶ.
②少子高齢化に伴う社会の変化を理解して説明できるようになる.
③人々の生活のしづらさを理解する.

【受講して得られる力】
考え抜く力
専門職としてのｽｷﾙ・意識
知識・理解
態度・志向性
統合的学習体験

【履修上の注意】

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	社会福祉の理念と意義	生活と福祉について理解する	個人
2	社会福祉の理念と意義	コロナ禍と災害について理解する	個人
3	社会福祉の理念と人権	基本的人権とノーマライゼイションを理解する	個人
4	子ども家庭福祉Ⅰ	少子化時代の子育て支援を理解する	個人
5	子どもの家庭福祉Ⅱ	子供のすこやかな成長の支援や課題を理解する	個人
6	障害者福祉とはⅠ	障害者の定義、現状と課題について理解する	個人
7	障害者福祉とはⅡ	各障害の課題を理解する	個人
8	高齢者福祉Ⅰ	人口動態を中心に高齢者福祉を理解する	個人
9	高齢者福祉Ⅱ	高齢者のメンタルヘルスを理解する	個人
10	生活保護	生活保護の概要と動向を理解する	個人
11	貧困と子供	貧困の定義を理解する	個人
12	減災論	震災対応について理解する	個人
13	発達障害Ⅰ	自閉症スペクトラムとADHDについて理解する	個人
14	発達障害Ⅱ	引きこもりについて理解する	個人
15	まとめ　振り返り	人権、差別を学び、理解する	個人

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験　85% 授業への貢献　15%

【教科書】	特に指定しない
【参考書】	特に指定しない

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	社会問題や，地域社会の課題について述べられるようになることを期待する

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
統計学	十文字　雄一	十文字

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業・理学療法学科	1	前期	15(30)	講義	2

【授業の概要・目的】

統計学の基本的な考え方と基礎的な手法を学ぶ．データの分布に関する知識を身に付ける．データの処理を習得し，推測と仮説検定法について理解する．

【学習目標(到達目標)】

①データを整理・分析するために必要な統計学の基本的な考え方について理解する．

②データの整理・分析手法を理解するための基礎を身につける．

③母平均の推定・検定について理解する．

【受講して得られる力】

知識・理解

専門職としてのｽｷﾙ・意識

問題解決力

論理的思考力

【履修上の注意】 とくになし

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	統計学の概説	統計の必要性，統計で用いられるデータの概要が理解できる	個人
2	データの表わし方	データの種類の概要が理解できるとともに，データをグラフや表で表わすことができる	個人
3	データの分布の代表値　1	データの分布の特徴(中心)を表わす代表値について理解できる	個人
4	データの分布の代表値　2	データの分布の特徴(拡がり)を表わす代表値について理解できる	個人
5	データ間の関係	2グループ間のデータの相関関係を把握するために用いる相関と回帰について理解できる	個人
6	確率変数と確率分布	確率変数と確率分布について理解できる	個人
7	正規分布1	連続型確率分布である正規分布の定義が理解できる	個人
8	正規分布2	標準正規分布表を用いた計算について理解できる	個人
9	二項分布	離散型確率分布である一様分布，二項分布，ポアソン分布について理解できる	個人
10	母集団と標本	母集団と標本の違いについて理解できる	個人
11	区間推定1	点推定と区間推定の違いについて理解できる	個人
12	区間推定2	母分散が既知の場合と未知の場合の母平均の区間推定方法について理解できる	個人
13	仮説検定	検定の考え方、有意水準、第一種の過誤、第二種の過誤について理解できる	個人
14	母平均の検定	母平均の検定方法について理解できる	個人
15	まとめ	今までの講義内容を振り返ることにより，統計学に関する知識を身に付ける	個人

期末試験	評価方法		
実施しない。		小テスト	80%
		受講態度	20%

【教科書】	なし
【参考書】	なし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 データの収集・代表値・相関係数・正規分布・基本統計量について計算する

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
物理学	白土　貴紀	白土

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	1	前期	15(30)	講義	2

【授業の概要・目的】

物理学の内容のうち,特に運動学と関係の深い力学と力学的エネルギーについて基礎的な知識を身に付ける. 熱, 電流, 磁気の基本的な概念について理解する.

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①身体運動と医療に必要な物理学の基本的な考え方について理解する.	知識・理解
②力学と力学的エネルギーを理解するための基礎を身につける.	考え抜く力
③熱, 電流, 磁気, 放射線について基本事項を理解する.	論理的思考力

【履修上の注意】 とくになし

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	物理学で学習すること 物理量とその表し方	理学療法と物理学の関連性を説明できる. 数値や単位の表し方を理解する. スカラーとベクトルについて説明できる.	個人
2	力	力の基礎概念とベクトル表現、作用・反作用、摩擦、重力を学ぶ. 各種力の特徴を理解し身体運動との関係を説明できる.	個人
3	モーメント	モーメントの概念とトルク、つり合い、慣性を学ぶ. 回転に関わる力の関係を理解し説明できる.	個人
4	圧力	圧力の基礎概念と体圧、水圧、気圧の特性を学ぶ. 各種圧力の違いを理解し臨床場面で説明できる.	個人
5	エネルギー	仕事とエネルギーの関係、力学・熱・電気エネルギーを学ぶ. 各種エネルギーの特徴と相互関係を理解し説明できる.	個人
6	電磁気	電気と電力、オームの法則、磁場と電磁力を学ぶ. 電磁気の基本原理を理解し回路や現象を説明できる.	個人
7	波動について	波動の基本性質と表現、横波・縦波・定常波、音の性質を学ぶ. 波動の特徴を理解し各種波と音の現象を説明できる.	個人
8	力学(てこ・滑車)	てこの基本構造と人体の第1～3てこ、定・動滑車を学ぶ. てこ・滑車の原理を理解し人体動作へ応用説明できる.	個人
9	力学(生体力学)	姿勢の基礎と立ち上がり・着座、リーチ・把持、移乗動作を学ぶ. 各基本動作の力学的特徴を理解し説明できる.	個人
10	圧力(呼吸・循環)	呼吸と循環における圧力変化と心ポンプ機能を学ぶ. 姿勢変化と圧力の関係を理解し循環動態を説明できる.	個人
11	エネルギー(物理療法機器)	物理療法機器に用いる熱・音・電気・光エネルギーを学ぶ. 各療法のエネルギー特性を理解し作用機序を説明でき	個人
12	エネルギー(放射線・電磁力)	放射線の基礎とX線・CT・MRIの原理と活用範囲を学ぶ. 各画像法の原理を理解し臨床的意義を説明できる.	個人
13	波動(音声)	発声・発語器官と音声生成機序、音響特性と障害を学ぶ. 音声の生成機構と音響的特徴を理解し説明できる.	個人
14	波動(聴覚)	聴覚器官の機構と音環境、障害、補聴器・人工内耳を学ぶ. 聴覚の仕組みと支援機器の原理を理解し説明できる.	個人
15	まとめ	要点の確認	個人

期末試験	実施しない。	評価方法	小テスト 80% 受講態度 20%

【教科書】	PT・OT　ゼロからの物理学
【参考書】	なし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 しっかりと復習を行うこと

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
化学	笹島　美沙希	笹島

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	1	後期	15(30)	講義	2

【授業の概要・目的】

自然科学の重要な学問のひとつである「化学」を学ぶことにより、日常生活を豊かにしている製品のもつ物質の本質を理解する。

【学習目標(到達目標)】

①医療関係に携わる学生にとって将来必要と考えられる化学の基礎知識と専門的内容を精選し学ぶ.

②科学思考を養うと共に生命を尊重する態度を育てる.

【受講して得られる力】

考え抜く力

知識・理解

論理的思考力

【履修上の注意】　※　講義時は、必ず『B5またはA4ｻｲｽﾞの大学ノート(横罫-A罫:7mm×30行)』を持参すること。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	化学	(1)物質の分類　1)混合物と純物質　2)化合物と単体 3)物質を構成する粒子　4)原子　5)原子量	個人
2	物質量	(1)　物質量　1)質量　2)体積　3)個数 (2)　原子の構造　(3)八偶子説	個人
3	原子力発電と原子爆弾	(1)原子力発電　1)放射性同位元素　2)放射線　3)原子量発電 4)放射性物質　(2)原子爆弾	個人
4	原子を構成する粒子	(1)原子を構成する主な粒子 (2)主な素粒子(基本物質)　1)中間子　2)中性微子	個人
5	化学の法則	(1)化学の主な法則 (2)化学の主な法則(練習問題)	個人
6	イオン	(1)イオンとイオンの生成　(2)単原子イオンと多原子イオン 1)イオンの価数　(3)最外殻電子と価電子　(4)周期律	個人
7	化学結合	(1)イオン結合とイオン結晶　(2)金属結合と金属結晶 (3)共有結合と共有結合の結晶	個人
8	酸と塩基	(1)酸と塩基　1)定義と性質　2)酸塩基の強弱　3)水の電離平衡 (2)pH　(3)中和反応と塩　(4)塩の加水分解　(5)塩の液性	個人
9	緩衝液	(1)緩衝液 (2)緩衝液の作用	個人
10	溶液と調整	(1)パーセント濃度　(2)モル濃度　(3)規定濃度 (4)(A＋B)(A:B)と(A→B)　(5)濃硫酸の希釈法	個人
11	参加と還元	(1)酸化と還元　(2)酸化数　(3)酸化剤・還元剤 (4)ボルタの電池　(5)電気分解と融解塩電解	個人
12	金属の性質	(1)金属のイオン化傾向　(2)金属の性質　(3)錆とメッキ　(4)合金	個人
13	水の硬度	(1)軟水と硬水　(2)硬度 (3)浸透圧　1)半透膜　2)細胞の成分　3)透析　(4)生理食塩水	個人
14	有機化学	(1)有機化合物(2)高分子1)合成高分子(3)重合1)付加重合2)縮合重合 (4)高分子の構造と性質(5)プラスチック(6)プラスチックの利点と欠点	個人
15	繊維	(1)天然繊維　1)動物線維　絹・羊毛　2)植物繊維　綿・麻 (2)化学繊維　1)合成繊維　2)再生繊維　3)半合成繊維　4)無機繊維	個人

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験　90% レポート　10%

【教科書】	化学の新研究　第3版(三省堂)
【参考書】	特になし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】　授業内容の復習を自分で作成したノートを中心に行ってください。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
情報リテラシー	白土　貴紀	白土

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	1	前期	15(30)	講義	2

【授業の概要・目的】

周辺機器を含むコンピュータハードウェアの取扱い，電子メール・インターネットの使用方法・マナー，ファイルやフォルダの操作，文章作成ソフト・プレゼンテーションソフトの使用方法を講義および演習で習得する.

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①医療，福祉分野や社会のおける情報の取り扱い方を理解する	知識・理解
②インターネットの利用マナーや危険性を理解する	専門職としてのｽｷﾙ・意識
③文章作成ソフトでレポート作成ができるようになる	情報活用能力
④プレゼンテーションソフトでプレゼン資料作成およびプレゼンができるようになる	統合的学習体験
	問題解決力

【履修上の注意】 PCを持参するかスマートフォンアプリでofficeをインストールする

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	コースオリエンテーション	科目の概要について理解する	個人
2	情報モラル	ネット被害，SNSにおけるトラブルを考える (事例検討を含む)	グループ
3	情報モラル	ネット被害，SNSにおけるトラブルを考える (事例検討を含む)	グループ
4	個人情報	医療における個人情報の役割，取り扱い方を理解する (事例検討を含む)	個人
5	医療と情報	医療における情報の役割，取り扱い方を理解する (事例検討を含む)	個人
6	医療と情報	医療における情報の役割，取り扱い方を理解する (事例検討を含む)	個人
7	研究倫理/演題投稿基準	医学系研究に関する倫理について考える 演題を投稿する際の注意点について理解する	個人
8	文献検索	文献の検索方法について学ぶ	個人
9	ワープロの操作	ワープロの基本操作	個人
10	表計算ソフトの操作	表計算ソフトの基本操作	個人
11	表計算ソフトの操作	表計算ソフトでの関数の使用	個人
12	統計ソフトの操作	表計算ソフトでの統計関数の使用	個人
13	プレゼーションソフトの操作	プレゼーションソフトの基本操作 スライド作成	個人
14	プレゼーションソフトの操作	プレゼーションソフトの基本操作 ポスター作製	個人
15	まとめ	その他のソフトウエアの紹介	個人

期末試験	評価方法	レポート 80%	受講態度 20%
なし			

【教科書】	特になし
【参考書】	特になし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	インターネットなどを用いて，次回の講義に該当する内容を予習しておくこと.

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
コミュニケーション論 ※ 実務経験のある教員の授業科目	白土　貴紀 病院（理学療法士）7年、在宅（理学療法士）7年勤務	白土

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数（時間）】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	1	前期	15(30)	講義	2

【授業の概要・目的】

医療従事者に求められるコミュニケーション能力を養うため，グループ（またはペア）での体験学習を行う.

【学習目標（到達目標）】	【受講して得られる力】
① 自分の考えを整理し要点を伝えることができる. ② 自分の考えを相手に分かりやすく伝えることができる. ③ 相手の意見を尊重して聞くことができる. ④ 相手の意見を正しく理解して解釈することができる. ⑤ 他者と協働して意見をまとめ発表することができる.	チームで働く力 コミュンケーションスキル

【履修上の注意】 配布資料を持参すること.

回数	授業のテーマ（担当教員）	授業の内容・目標（使用教材等）	授業方法
1	自己の再発見	自分自身を様々な側面から見つめてみる. 自分について新たな発見をする.	グループ
2	他者理解 ①	一つのルールに従って行動する. メンバー同士の関わりについて気付く.	グループ
3	他者理解 ②	大切にしていることに順位をつける作業を行う. 自分や他者の大切にするものの多様性について気付く.	グループ
4	多様性	メンバーと協力しながら作業する. 助け合いの気持ちを持つ.	グループ
5	双方向コミュニケーション ①	一方向と双方向のコミュニケーションを体験する. コミュニケーションのあり方について気付く.	グループ
6	双方向コミュニケーション ②	情報をわかりやすく伝え合い，順番を確認する作業を行う. 意思疎通を図る大切さに気付く.	グループ
7	傾聴 ①	傾聴的な聴き方の姿勢やスキルを考え体験する. 聴き手の姿勢次第で話相手の気持ちが変わることに気づく.	グループ
8	傾聴 ②	対応を分担した役割に応じて話し合いを行う. 対応の違いにより相手がどのように感じるかについて気付く.	グループ
9	ホスピタリティー・マインド ①	目隠しをした相手をサポートをしながら歩行する. 相手への心配りについて気付く.	グループ
10	ホスピタリティー・マインド ②	望ましい声掛けとは何かについて話し合いを行う. 相手に寄り添いう気持ちで話を聞き自分の思いも伝える.	グループ
11	自己主張 ①	相手の発言に対し自分の気持ちをさわやかに伝える. 相手も受け入れができる伝え方について気付く.	グループ
12	自己主張 ②	テーマの是非について互いの主張を説明しあう. 相手が受け入れるように伝える際の相手との関係性に気づく.	グループ
13	合意形成 ①	情報をまとめながら行動日程を明らかにする. 意思決定や協力のありようについて気付く.	グループ
14	合意形成 ②	情報をまとめつつ目的にまでの道順を明らかにする作業を行う. 意思決定や協力のありようについて気付く.	グループ
15	メンバーシップ	ある場所の位置関係や配置を情報をまとめながら明らかにする作業を行う. 様々なリーダーシップのありように気づく.	グループ

期末試験	評価方法			
実施しない		レポート	70%	受講態度 10%
		授業への貢献	20%	

【教科書】	特に指定しない.
【参考書】	特に指定しない.

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 体験学習を通して気づいたことや，日常の中で活かせることについてまとめる.

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
保健体育(1/2)	小松　未来	笹島

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	1	通年	30(60)	講義・演習	2

【授業の概要・目的】

教育内容を人間と生活に位置付け、体育の分野では生涯スポーツを目指し運動技能の向上を図る。保健の分野では生涯を健康で心豊かに生きていくために必要なことは何かを考え、前向きに生きる力に繋げていく。

【学習目標(到達目標)】

①各種のスポーツに触れ、実践することで基礎的な運動能力を高めることができる。
②ゲームを通してチームワークとコミュニケーションスキルを培うことができる。
③身近な健康について目を向け、理解を深めることで、自己の健康管理に繋げることができる。
④生活の中で計画的に運動を実施していく考え方や方法を身に付けていく。

【受講して得られる力】

前に踏み出す力
チームで働く力
コミュンケーションスキル
知識・理解

【履修上の注意】**体操着、体育館シューズ、水分の準備を徹底すること　※私服、実習着、実習靴、アクセサリー等を身に付けたままの受講は認めない。**

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	オリエンテーション	1.ストレッチング運動の方法　2.活動時における取り組み方　3.器具・機材の安全管理	グループ
2	バレーボール	ルール説明とボール操作法の理解と練習(オーバーハンド及びアンダーハンドパス)	グループ
3		パスの復習とボール操作法の理解と練習(サーブの導入)	グループ
4		パス・サーブの復習とボール操作法の理解と練習(アタックの導入)	グループ
5		サーブ・アタックの復習と対人レシーブ	グループ
6		アタックの復習とゲームの導入(レセプションのフォーメーション説明とチームづくり)	グループ
7		対人レシーブ・アタックの復習とブロックの導入・チーム練習・ゲーム(リーグ戦1)	グループ
8		対人レシーブ・アタック・サーブ・チーム練習・ゲーム(リーグ戦2)	グループ
9		対人レシーブ・アタック・サーブ・チーム練習・ゲーム(リーグ戦3)	グループ
10		対人レシーブ・9人制バレーボールを試みる	グループ
11		対人レシーブ・ソフトバレーボールを試みる	グループ
12	健康のとらえ方 (教室授業)	「健康とは何か。」健康は私たちにとって、とても身近な話題である。しかし、この問いの答えは簡単ではない。健康のとらえ方についてあなたの答えを見つけていく。	個人
13	喫煙と健康について (教室授業)	喫煙は世界的な健康問題であるとして、日本をはじめ各国で様々な対策が行われている。喫煙は、なぜそれほどまでに大きな問題とされているのか学ぶ。	個人
14	飲酒と健康について (教室授業)	飲酒は、交通事故や暴力事件などの社会問題だけでなく、深刻な健康問題をもたらすことがある。飲酒は健康にどのような影響を与えるのか学ぶ。	個人
15	薬物乱用と健康について (教室授業)	世界中で薬物乱用が絶えない。なぜ、社会は薬物乱用を大きく取り上げるのか、また個人として社会として何をするべきかを考える。	個人

期末試験	評価方法		
実施なし		授業への貢献	60%
		課題の達成度	40%

【教科書】	特に指定しない.
【参考書】	特に指定しない.

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】　実施種目の個人練習(復習)と課題レポートの作成に力を入れる。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
保健体育(2/2)	小松　未来	笹島

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	1	通年	30(60)	講義・演習	2

【授業の概要・目的】

教育内容を人間と生活に位置付け、体育の分野では生涯スポーツを目指し運動技能の向上を図る。保健の分野では生涯を健康で心豊かに生きていくために必要なことは何かを考え、前向きに生きる力に繋げていく。

【学習目標(到達目標)】

①各種のスポーツに触れ、実践することで基礎的な運動能力を高めることができる。
②ゲームを通してチームワークとコミュニケーションスキルを培うことができる。
③身近な健康について目を向け、理解を深めることで、自己の健康管理に繋げることができる。
④生活の中で計画的に運動を実施していく考え方や方法を身に付けていく。

【受講して得られる力】

前に踏み出す力
チームで働く力
コミュンケーションスキル
知識・理解

【履修上の注意】体操着、体育館シューズ、水分の準備を徹底すること　※私服、実習着、実習靴、アクセサリーを身に付けたままの受講は認めない。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	生活習慣とその予防 (教室授業)	がん・心臓病・脳卒中などの病気は、自分とは無関係だと思っている人が多くいる。しかし、あなたの生活習慣が、その原因になる可能性がある。健康的な生活習慣について考える。	個人
2	妊娠・出産と健康、家族計画と人工妊娠中絶 (教室授業)	新しい命が誕生する時、特に健康に対して注意しなければならない時期でもある。また、望まない妊娠・出産は親子にとって大きな負担となる可能性があるということを学ぶ。	個人
3	応急手当の意義と日常的な応急・心肺蘇生法 (教室授業)	怪我や熱中症の応急手当の知識を身に付けていると、日常生活で大いに役立つ。心肺蘇生法も同様に、正しい方法や手順を学ぶ。	個人
4	運動指導計画 (教室授業)	運動指導の実施に向け、指導案を作成する。各グループで協力し、準備を進める中で、リーダーシップの向上や協調性を磨く。	グループ
5	運動指導①	各グループがクラスメイトに対し、運動指導を行う。目的の達成に向けて、お互いが協力し、助け合って実施する。生活の中で計画的に運動を実践していく考え方や方法を身に付ける。	グループ
6	運動指導②	各グループがクラスメイトに対し、運動指導を行う。目的の達成に向けて、お互いが協力し、助け合って実施する。生活の中で計画的に運動を実践していく考え方や方法を身に付ける。	グループ
7	バスケットボール	ボールコントロールに関する技術の習得(シュート、パス、ドリブル、リバウンド)	グループ
8		ボディーコントロールに関する技術の習得①(チェンジオブディレクション)	グループ
9		ボディーコントロールに関する技術の習得②(ストップターン、ピボット、ディフェンスフットワーク)	グループ
10		1対1のオフェンス(アウトサイドエリアとインサイドエリアでのボールのもらい方などを習得する)	グループ
11		1対1のディフェンス(ボール保持者とボール非保持者のディフェンスの基本)	グループ
12		3対3のオフェンスの動きの原則、3対3のディフェンスの動きの原則	グループ
13		ファーストブレイク(ファーストブレイクの基本、アウトナンバープレイ、リバウンドとアウトレットパス)	グループ
14		チームオフェンス&ディフェンス(フリーランス&フォーメーションオフェンス、マンツーとゾーンディフェンス)	グループ
15	まとめ	これまでの到達度の確認と各活動の振り返りを行う	グループ

期末試験	実施あり	評価方法	課題の達成度　100%	

【教科書】	特に指定しない.
【参考書】	特に指定しない.

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】健康管理と定期的な運動を心がけてください。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
外国語	Robert Holt	笹島

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	1	前期	15(30)	講義	1

【授業の概要・目的】

The purpose of this course is to teach students "Beginner" level English and to give them the confidence to use this English in real situations. The course will focus on developing core skills for communication.

【学習目標(到達目標)】

① Students will be expected to use English in class (i.e. in greeting the teacher or other students).
② Over the course students will experience English in a number of formats (reading, listening, music etc) and will be expected to communicate in English and sing songs.

【受講して得られる力】

知識・理解
コミュンケーションスキル
統合的学習体験
態度・志向性

【履修上の注意】 Students will be expected to do homework as and when set. Students will need a dictionary in class.

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	1A – Hello	Verb be (singular): I and you. Numbers 0–10; days of the week.	個人
2	1B – Where are you from?	Verb be (singular): He, she and it. Countries.	個人
3	Practical English: How do you spell it?	The alphabet and spelling. Spelling practice.	個人
4	2A – We aren't English. We're American.	Verb be (plural): We, you, they. Nationalities.	個人
5	2B – What's your phone number?	Wh– and How questions with be. Phone numbers; numbers 11–100.	個人
6	3A – What's in your bag?	Singular and plural nouns; a / an. Vocabulary – small things.	個人
7	3B – Is that a hat?	This / That / These / Those. Vocabulary – Souvenirs.	個人
8	Practical English: Can I have an orange juice, please?	Saying and understanding prices. The use of money and numbers.	個人
9	4A – Family and friends.	Possessive adjectives; possessive 's. Vocabulary – people and family.	個人
10	4B – Big cars or small cars?	Adjectives. Colours and common adjectives.	個人
11	5A – Breakfast around the world.	Present simple (+ / –): I, you, we and they. Food and drink vocabulary.	個人
12	5B – A very long flight.	Present simple (?): I, you, we and they. Common verb phrases 1.	個人
13	Practical English: What time is it?	Telling the time. Saying how you feel.	個人
14	6A – She works for Armani.	Present simple: He, she and it. Jobs and places of work.	個人
15	6B – A day in my life.	Adverbs of Frequency. A typical day.	個人

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 100%

【教科書】	English File – Beginner Student's Book &iTutor 4th edition. Christina Latham-Koenig & Clive Oxenden.
【参考書】	なし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 授業内容の復習を自分で作成したノートを中心に行ってください。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

専門基礎分野

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
解剖学Ⅰ（1/2）	吉田 俊太郎	吉田

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	1	前期	30(60)	講義	2

【授業の概要・目的】

人体を構成する骨・関節・筋・腱・靱帯等の構造や機能を学習する。
イラストや骨モデル等を使用し、立体的なイメージが持てるよう学習する。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①骨の部位や名称を説明することができる ②関節の構造や靱帯の役割、機能を説明することができる ③骨や関節を立体的に説明することができる	知識・理解

【履修上の注意】教科書や参考書を必ず持参して臨むようにしましょう.

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	解剖学とは	解剖学を学ぶ目的・解剖学用語を理解する 人体の形態変化や分化を理解する	個人
2	骨・関節・靱帯について	骨を理解する 関節の構造や機能について理解する	個人
3	上肢帯と上腕の骨	鎖骨・肩甲骨・上腕骨の構造を理解する 骨の名称と部位を理解する	個人
4	前腕と手の骨	橈骨・尺骨・手根骨・中手骨・指骨の構造を理解する 骨の名称と部位を理解する	個人
5	脊柱	脊柱を構成する骨の構造を理解する 脊柱を構成する骨の名称と部位を理解する	個人
6	胸骨・肋骨	胸骨・肋骨の構造を理解する 骨の名称と部位を理解する	個人
7	下肢帯と大腿の骨	大腿骨・膝蓋骨の構造を理解する 骨の名称と部位を理解する	個人
8	下腿と足の骨	脛骨・腓骨の構造を理解する 骨の名称と部位を理解する	個人
9	肩関節	肩関節周囲の構造と機能を理解する	個人
10	肘関節	肘関節を構成する骨、靱帯を理解する	個人
11	手関節	手関節、指節間関節を構成する骨や靱帯を理解する	個人
12	脊柱	脊柱を構成する骨や関節、靱帯を理解する	個人
13	股関節	股関節を構成する骨や関節、靱帯を理解する	個人
14	膝関節	膝関節周囲の構造と機能を理解する	個人
15	足関節	足関節、指節間関節を構成する骨や靱帯を理解する	個人

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 100%

【教科書】	PT・OTビジュアルテキスト　解剖学　第2版　（羊土社）
【参考書】	特に指定しない

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】イラストや骨モデルを使用し復習をすること。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
解剖学Ⅰ(2/2)	吉田 俊太郎	吉田

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	1	前期	30(60)	講義	2

【授業の概要・目的】

人体を構成する骨・関節・筋・腱・靭帯・神経・血管などの構造と機能について学習する。
骨モデルを使用し、立体的にイメージできるよう学習していく。

【学習目標(到達目標)】

①骨モデルを使用し、全身の骨について説明することができる。
②骨・関節・靭帯・腱・筋の構造と機能について説明することができる。
③神経・血管の構造と機能について説明することができる。

【受講して得られる力】

知識・理解

【履修上の注意】教科書を持参して下さい。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	上肢帯の筋	上肢帯に付着する筋について理解する。 筋の起始・停止について骨モデルを使用し説明できるよう学習する。	個人・グループ
2	上腕の筋	上腕に付着する筋について理解する。 筋の起始・停止について骨モデルを使用しできるよう学習する。	個人・グループ
3	前腕の筋	前腕に付着する筋について理解する。 筋の起始・停止について骨モデルを使用しできるよう学習する。	個人・グループ
4	手の筋	手内在筋について理解する。 筋の起始・停止について骨モデルを使用しできるよう学習する。	個人・グループ
5	下肢帯の筋	下肢帯に付着する筋について理解する。 筋の起始・停止について骨モデルを使用しできるよう学習する。	個人・グループ
6	大腿の筋	大腿に付着する筋について理解する。 筋の起始・停止について骨モデルを使用しできるよう学習する。	個人・グループ
7	下腿の筋	下腿に付着する筋について理解する。 筋の起始・停止について骨モデルを使用しできるよう学習する。	個人・グループ
8	足の筋	足内在筋について理解する。 筋の起始・停止について骨モデルを使用しできるよう学習する。	個人・グループ
9	脊柱と胸郭の構造と機能について	脊柱と胸郭の構造と機能について理解する。 筋の起始・停止について骨モデルを使用しできるよう学習する。	個人・グループ
10	体幹・胸郭の筋	体幹に付着する筋・呼吸運動における胸郭と筋の働きについて理解する。	個人・グループ
11	頭蓋骨	頭蓋骨(脳頭蓋・顔面頭蓋)の構造と機能について理解する。 脳神経・血管の交通する頭蓋の孔および管について学習する。	個人・グループ
12	頭部の筋	頭部に付着する筋について理解する。 表情筋・咀嚼筋について起始・停止・作用・神経について学習する。	個人・グループ
13	上肢帯・上肢の神経	上肢帯・上肢を支配する神経について理解する。 上肢帯・上肢を支配する神経の分布・走行・領域について学習する。	個人・グループ
14	下肢帯・下肢の神経	下肢帯・下肢を支配する神経について理解する。 下肢帯・下肢を支配する神経の分布・走行・領域について学習する。	個人・グループ
15	全身の血管の走行	全身の血管の分布と走行について理解する。 全身の静脈・動脈の血管の分布と走行について学習する。	個人・グループ

期末試験	前期期末試験	評価方法	筆記試験 100%	

【教科書】	PT・OTビジュアルテキスト 解剖学 第2版 (羊土社)
【参考書】	特に指定しない

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】骨モデルを積極的に使用し、復習してください。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
解剖学Ⅱ（1/2）	吉田 俊太郎	吉田

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数（時間）】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	1	後期	30(60)	講義	2

【授業の概要・目的】

内臓系（消化器系・呼吸器系・泌尿器系・生殖器系）および内分泌系を理解し、適切かつ合理的な施術を遂行できるようにするための正しい知識を習得する。

【学習目標（到達目標）】	【受講して得られる力】
①人体で代表的な内臓の部位・名称、構造の特徴を説明できる ②消化器系、呼吸器系、泌尿器系、内分泌系に属する器官の種類、機能を説明できる ③各器官の構造を立体的なイメージをもって理解する	知識・理解 考え抜く力 情報活用能力

【履修上の注意】教科書を必ず使用しますので、忘れずに準備をしてください。

回数	授業のテーマ（担当教員）	授業の内容・目標（使用教材等）	授業方法
1	消化器系(1)	消化器の働き、種類と構造 口唇	個人
2	消化器系(2)	口腔、口腔腺、歯	個人
3	消化器系(3)	舌、咽頭、食道、胃	個人
4	消化器系(4)	小腸、大腸、肝臓と胆嚢、膵臓と腹膜、嚥下	個人
6	呼吸器系(1)	呼吸器の種類と分類 外鼻、鼻腔と副鼻腔、咽頭、喉頭、発声	個人
7	呼吸器系(2)	喉頭、気管と気管支	個人
8	呼吸器系(3)	肺、胸膜、縦隔	個人
8	循環器系(1)	心臓の構造と機能	個人
9	循環器系(2)	脈管（血管・血液）、リンパ	個人
10	循環器系(3)	上下肢・体幹の血管	個人
11	泌尿器系(1)	泌尿器の種類と働き 腎臓の構造と働き	個人
12	泌尿器系(2)	尿管、膀胱、尿道	個人
13	内分泌(1)	内分泌系の働き 下垂体、甲状腺、上皮小体	個人
14	内分泌系(2)	内分泌系の働き 副腎、膵臓、精巣、卵巣、胸腺	個人
15	生殖器系	男性生殖器の構造、精巣と精巣上体 女性生殖器の構造、卵巣、卵管、子宮	個人

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 100%

【教科書】	PT・OTビジュアルテキスト　解剖学　第2版　（羊土社）
【参考書】	特に指定しない

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】　授業で学んだ範囲についての復習を行う

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
解剖学Ⅱ(2/2)	増子 就斗	増子

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	1	後期	30(60)	講義・演習	2

【授業の概要・目的】

神経系の組織や構造、機能を学習し理解することができる。
イラストを使用し、立体的なイメージが持てるよう学習し、基盤となる知識を定着できる。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①中枢神経系と末梢神経系の主な構成要素を理解できる ②大脳の構造と部位,機能を理解できる ③脳神経と脊髄神経の構造,機能について理解できる	知識・理解 情報活用能力 態度・志向性

【履修上の注意】教科書や参考書を必ず持参して臨むようにしましょう.

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	神経系総論	中枢神経系と末梢神経系について理解する.	個人
2	神経系総論	神経系の構成,神経線維の区分について理解する.	個人
3	脊髄	脊髄の構造,運動神経と感覚神経の経路について理解する.	個人
4	脳幹	脳幹を構成する中脳,橋,延髄の構造を理解する. 脳幹の機能について理解する.	個人
5	大脳皮質	大脳皮質の構造,部位の名称を理解する. 大脳皮質の機能局在と機能を理解する.	個人
6	小脳・間脳	小脳の構造・機能を理解する. 間脳の構造・機能を理解する.	個人
7	運動系伝導路	脊髄の主要な伝導路について理解する. 錐体路を理解する.	個人
8	感覚系伝導路	脊髄の主要な伝導路について理解する. 後索路・脊髄視床路を理解する.	個人
9	大脳基底核・大脳辺縁系	大脳基底核の構造と機能について理解する. 大脳辺縁系の構造と機能について理解する.	個人
10	脊髄神経	皮膚知覚帯(デルマトーム)の領域を理解する.	個人
11	脳神経	脳神経の名称と機能を理解する.	個人
12	交感神経・副交感神経	自律神経の機能と構造を理解する.	個人
13	脳血管	大脳動脈輪の構成血管を理解する.	個人
14	感覚器	自律神経の機能と構造を理解する.	個人
15	まとめ	神経伝導路,大脳皮質の局在性などをまとめる	個人

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 50%	受講態度 10%
			小テスト 40%	

【教科書】	PT・OTビジュアルテキスト 解剖学 第2版(羊土社)
【参考書】	講義内で紹介します.

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】教科書や参考書を使用し復習をすること。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
生理学Ⅰ(1/2)	川﨑 萌絵	川﨑

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	1	通年	30(60)	講義	2

【授業の概要・目的】

人体を理解するための基礎的な知識として、生物の構造と機能を学びます。はじめは、最も重要な「細胞」について解説.その後、それを踏まえた上で人間の身体の様々なはたらきを理解します.

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①細胞の基礎について説明することができる。 ②生体内での反応についてイメージを持って説明することができる。 ③生理学に興味をもつ	知識・理解 チームで働く力 論理的思考力 考え抜く力 前に踏み出す力

【履修上の注意】講義内で使用するため、単語帳の準備をすること.

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	生理学とは	生理学の概要について 生物機能の緻密で複雑な仕組みについて理解する	個人
2	細胞の構造と機能	細胞について理解する	個人
3	単元まとめワーク	細胞の構造と機能について、問題の解説を中心としたグループワークをとおして説明できる	個人
4	細胞の興奮と伝導1	刺激と興奮と膜電位について理解する	個人
5	細胞の興奮と伝導2	興奮発生の機序と興奮伝導について理解する	個人
6	単元まとめワーク	細胞の興奮と伝導について、問題の解説を中心としたグループワークをとおして説明できる	個人
7	神経と筋1	骨格筋の構成を学習し、筋収縮のメカニズムを学習する。	個人
8	神経と筋2	筋収縮力学と筋のエネルギー発生について理解する	個人
9	神経と筋3	様々な筋の収縮様式について理解する	個人
10	単元まとめワーク	神経と筋について、問題の解説を中心としたグループワークをとおして説明できる	個人
11	神経機能1	末梢神経・中枢神経の役割について学習する。	個人
12	神経機能2	自律神経系の構成と作用について学習する。	個人
13	神経機能3	感覚器と求心性神経の役割について学習する	個人
14	単元まとめワーク	神経機能について、問題の解説を中心としたグループワークをとおして説明できる	個人
15	まとめ・復習	前期講義内容について確認する	個人

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 90% 小テスト 10%

【教科書】	Qシリーズ新生理学【電子版付】(日本医事新報社)
【参考書】	講義内で参考図書を紹介する

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	教科書を一読し、太字で記載されているキーワードは理解・説明できるよう学習する

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
生理学Ⅰ(2/2)	川﨑 萌絵	川﨑

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	1	通年	30(60)	講義	2

【授業の概要・目的】

人体を理解するための基礎的な知識として、生物の構造と機能を学びます。はじめは、最も重要な「細胞」について解説.
その後、それを踏まえた上で人間の身体の様々なはたらきを理解します.

【学習目標(到達目標)】

①細胞の基礎について説明することができる。
②生体内での反応についてイメージを持って説明することができる。
③生理学に興味をもつ

【受講して得られる力】

知識・理解
チームで働く力
論理的思考力
考え抜く力
前に踏み出す力

【履修上の注意】講義内で使用するため、単語帳の準備をすること.

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	呼吸(肺)の生理1	呼吸とはなにかを学習する	個人
2	呼吸(肺)の生理2	ガスの拡散、ヘモグロビンの役割について説明できる	個人
3	呼吸(肺)の生理3	呼吸の周期性と肺換気量調節の仕組みについて説明できる	個人
4	循環(心臓・血液)の生理1	心臓・血管・リンパ管系の機能について理解する	個人
5	循環(心臓・血液)の生理2	血液の機能、免疫系のシステムについて理解する	個人
6	循環(心臓・血液)の生理3	全身の循環調節機構について理解する	個人
7	消化・吸収の生理1	消化器系の構造と機能について理解する	個人
8	消化・吸収の生理2	食物を摂取し消化・吸収・排泄するしくみを理解する	個人
9	栄養・代謝の生理1	栄養素の代謝過程、エネルギー産生のしくみを理解する	個人
10	栄養・代謝の生理2	三大栄養素の中間代謝とエネルギー代謝について説明できる	個人
11	泌尿(腎臓)の生理1	腎臓の構造と機能について理解する	個人
12	泌尿(腎臓)の生理2	尿の生成と排泄について理解する	個人
13	内分泌(ホルモン)の生理1	ホルモンの一般的性質について理解する	個人
14	内分泌(ホルモン)の生理2	内分泌の概念と作用機構について概要を理解する	個人
15	内分泌(ホルモン)の生理3	内分泌器官から分泌されるホルモンと その作用機構について理解する	個人

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 90% 小テスト 10%

【教科書】	Qシリーズ新生理学【電子版付】(日本医事新報社)
【参考書】	講義内で参考図書を紹介する

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】教科書を一読し、太字で記載されているキーワードは理解・説明できるよう学習する

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
生理学実習	川﨑・笹島	川﨑

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	1	後期	15(30)	演習・実習	1

【授業の概要・目的】

様々な医療機器を用いて、実験的に心臓、筋肉、循環、呼吸など生理学を学びます。自分自身あるいは同級生を対象として、実習を展開します。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①筋電図検査を実施し考察できる ②心電図・筋電図を解析し考察できる ③血圧や脈拍を測定し考察できる ④呼吸機能検査を実施し考察できる	知識・理解 論理的思考力 情報活用能力

【履修上の注意】 実習着・実習靴の着用し髪型，爪など清潔に身だしなみを整えて実習に参加してください。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	循環(心拍・血圧)解析 (笹島)	安静状態での血圧・心拍数を測定し、体位変換による変化を観察・測定する。神経性調節の仕組みを理解する。触診法および聴診法での血圧測定、橈骨動脈触知による脈拍測定の方法を習得する キーワード:触診法、聴診法、コロトコフ音	個人・グループ
2			
3			
4	心電図解析 (川﨑)	標準12誘導心電図を記録し、心臓の電気的興奮の発生を理解する 12誘導の方法、心電図の波形の意味を理解する	個人・グループ
5			
6		キーワード:P波、QRS波、T波、アイントーベンの三角形・移行帯	
7			
8	表面筋電解析 (笹島)	表面筋電図の記録から筋収縮の生理学的なメカニズムを理解する	個人・グループ
9			
10		キーワード:振幅、持続時間、位相	
11			
12	スパイロメトリー検査 (川﨑)	スパイロメトリーを使用し呼吸機能検査を実施することの重要性と換気のメカニズムについて理解する	個人・グループ
13			
14		キーワード:肺分画，フローボリューム曲線，換気障害	
15			
期末試験		評価方法 レポート 100%	

【教科書】	Qシリーズ新生理学【電子版付】(日本医事新報社)
【参考書】	特に指定しない

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 各担当教員から指示があった予習課題・復習課題を実施すること

【本講義に関しての質問先】 担当教員 【質問方法】 教員室にて

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
運動学Ⅰ(1/2) ※ 実務経験のある教員の授業科目		十文字　雄一 病院(理学療法士)14年勤務			十文字
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	1	通年	30(60)	講義	2

【授業の概要・目的】

運動学の概要及び上肢・脊柱の関節運動について解剖学的知識を含め理解・説明できるようになる。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①身体運動の面と軸を理解し、各関節の運動作用を軸を起点に考えることができる ②関節の形状を理解し、運動を作用を考える際にも応用できるようになる ③筋収縮のメカニズム・収縮の様態を理解し、説明できる	知識・理解 専門職としてのｽｷﾙ・意識 論理的思考力 態度・志向性

【履修上の注意】特になし

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	運動学の基礎	基本肢位、運動と変位、運動の面と軸を理解することができる	個人
2	運動力学の基礎	力の概念、力と運動について理解することができる	個人
3		仕事とエネルギー、力と滑車について関係を理解することができる	個人
4	身体運動とモーメント	力のモーメント、重心について理解することができる	個人
5	身体運動とてこ	3種類のてこ、関節モーメントと関節応力の関係について理解することができる	個人
6	運動器の構造と基礎	骨の役割と分類、骨の基本構造、骨質の構造について理解することができる	個人
7		骨のモデリング・リモデリング、骨代謝について理解することができる	個人
8	関節の構造と機能	広義の関節分類、関節の基本構造、関節包と滑液、関節軟骨について理解することができる	個人
9		靭帯、滑膜性関節の分類、関節包内運動について理解することができる	個人
10	骨格筋の構造と機能	骨格筋の概要、骨格筋の基本構造について理解することができる	個人
11		骨格筋の微細構造、骨格筋の収縮機序、筋収縮のためのATP供給・生成過程について理解することができる	個人
12		筋線維のタイプ、運動単位と筋収縮の調節、筋収縮による張力発生の特性について理解することができる	個人
13		筋肥大と筋委縮、筋の感覚受容器、腱の基本構造と機能について理解することができる	個人
14	頸部～体幹の運動 頸部・脊柱の運動と解剖	上肢の解剖、運動方向をについて理解することができる	個人
15	胸郭の運動 胸郭の運動と解剖	下肢の解剖、運動方向について理解することができる	個人

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験　90% 受講態度　10%

【教科書】	基礎運動学 第6版 補訂(医歯薬出版)
【参考書】	PT・OTビジュアルテキスト専門基礎　運動学(羊土社)

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	解剖学

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
運動学Ⅰ(2/2) ※ 実務経験のある教員の授業科目	十文字　雄一 病院(理学療法士)10年勤務	十文字

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	1	通年	30(60)	講義	2

【授業の概要・目的】

運動学の概要および上肢・下肢の動きについて解剖学的知識を含め説明できるようになる。主に、講義形式で講義を展開する

【学習目標(到達目標)】

①四肢の運動機能について理解することができる。
②姿勢・歩行について説明できるようになり、動作観察の一部ができるようになる
③解剖学と生理学の知識を統合できる

【受講して得られる力】

知識・理解
専門職としてのｽｷﾙ・意識

【履修上の注意】解剖学をしっかり復習して下さい

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	上肢帯と上肢の運動① 上肢帯に作用する筋	上肢帯、肩甲帯に付着している筋群の起始・停止、神経支配について理解・説明できる	個人
2	上肢帯と上肢の運動② 肩関節に作用する筋	肩関節の筋の作用や動きについて理解できる フォースカップル機構	個人
3	肘関節と前腕の運動① 肘関節の骨・靭帯	肘関節を構成する骨と靭帯について説明できる	個人
4	肘関節と前腕の運動② 肘関節の筋作用	肘関節の特徴と運動方向の名称を説明できる 肘関節の筋作用を理解することができる	個人
5	手関節と手の運動① 手関節・手指の解剖	手関節・手指の解剖や特徴を理解し説明できる	個人
6	手関節と手の運動② 手関節と手指の関節	手関節・手指の関節の特徴や運動学的特徴を説明できる	個人
7	上肢の運動作用についての復習	上肢の運動作用について理解し、説明できるようにする	個人
8	下肢帯と下肢の運動	下肢の運動について理解できる	個人
9	股関節の運動①	股関節の筋肉・靭帯の機能について理解できる	個人
10	股関節の運動②	膝関節の運動が理解できる	個人
11	膝関節の運動①	膝関節の筋肉・靭帯の機能について理解できる	個人
12	膝関節の運動②	膝関節の運動が理解できる	個人
13	足関節(足部)の運動①	足関節の筋肉・靭帯の機能について理解できる	個人
14	足関節(足部)の運動②	足関節の運動が理解できる	個人
15	下肢運動まとめ	下肢の運動について理解できる	個人

期末試験	後期期末試験	評価方法	筆記試験　90% 受講態度　10%	

【教科書】	基礎運動学 第6版 補訂(医歯薬出版)
【参考書】	PT・OTビジュアルテキスト専門基礎　運動学(羊土社)

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】解剖学(骨の名称、筋肉の名称・走行)

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
人体の構造と機能 ※ 実務経験のある教員の授業科目	川﨑　萌絵 病院（理学療法士）8年勤務	川﨑

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数（時間）】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	1	後期	15(30)	講義	1

【授業の概要・目的】

人体がどのように成り立っているのかを学びます。人体を構成する各器官の基本的な構造（形態）とはたらき（機能）について学習し、解剖学・生理学・運動学の理解につながるイメージをもてるよう取り組みます。

【学習目標（到達目標）】	【受講して得られる力】
①人体で代表的な器官の部位・名称、構造の特徴を説明できる ②各器官のはたらきを専門用語を用いて具体的に説明できる ③各器官の構造を立体的なイメージをもって理解する	知識・理解 創造的思考力 考え抜く力

【履修上の注意】はさみ・のり・カッター・定規・筆記用具の準備をし講義に臨んでください。

回数	授業のテーマ（担当教員）	授業の内容・目標（使用教材等）	授業方法
1	細胞の仕組み	基本的な構造と機能を理解できる.	個人
2	身体運動の仕組み	随意運動の発現が理解できる.	個人
3	身体運動の仕組み	骨格系の構造と機能が理解できる.	個人
4	身体運動の仕組み	筋の機能や特性が理解できる.	個人
5	身体運動の仕組み	運動における生理変化を理解できる.	個人
6	神経系の仕組み	神経系の分類と構成される要素が理解できる.	個人
7	神経系の仕組み	神経細胞とネットワークが理解できる.	個人
8	神経系の仕組み	記憶と学習のメカニズムが理解できる.	個人
9	循環の仕組み	血液の成分と機能を理解できる.	個人
10	循環の仕組み	全身の循環動態を理解できる.	個人
11	呼吸の仕組み	呼吸器の構造と機能を理解できる.	個人
12	呼吸の仕組み	呼吸運動やガス交換を理解できる.	個人
13	代謝の仕組み	消化や吸収の機序が理解できる.	個人
14	排泄の仕組み	排泄の機序を理解できる.	個人
15	まとめ・復習	学習でポイントとなる部分について再度確認し、理解できる	個人

期末試験	筆記試験	評価方法	小テスト 20% 筆記試験 80%

【教科書】	特に指定しない.
【参考書】	講義で紹介します.

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】基礎医学のテキストを参考にして復習を行いましょう.

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
公衆衛生学	安中　聡一 病院（理学療法士）8年勤務	安中

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数（時間）】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	1	前期	15(30)	講義	1

【授業の概要・目的】

健康の維持・増進、疾病の予防に関して理解する。医療法や医療体制を学び、医療従事者として必要な知識を理解する。

【学習目標（到達目標）】	【受講して得られる力】
①保健統計から我が国の健康の現状が理解できる ②健康の維持増進について理解できる ③根拠のある医療について理解できる ④医療安全や医の倫理について理解できる ⑤医療にまつわる各種制度について理解できる	知識・理解 情報活用能力

【履修上の注意】　教科書を持参して下さい、小テストを実施しますので復習に努めて下さい

回数	授業のテーマ（担当教員）	授業の内容・目標（使用教材等）	授業方法
1	公衆衛生学概論	公衆衛生の歴史,健康の概念、WHOによる健康の定義、予防医学、ヘルスプロモーション、行動変容について理解する。	個人
2	疫学とEBM	疫学の概念、疫学の指標、疫学研究のデザイン、EBMについて理解する。	個人
3	我が国の保健統計	人口構造の変化,保健統計の種類、人工静動態（国勢調査）と人口動態統計、死因統計、疾病統計について理解する。	個人
4	医の倫理と患者の人権	医の倫理と患者の人権、インフォームドコンセント、患者の自己決定権、診療情報提供と患者情報の保護について理解する。	個人
5	診療情報と各種証明書	カルテ記録の方法や保存、各種証明書について理解する。	個人
6	終末期医療と死の概念	緩和ケア、全人的苦痛、レスパイトケア、グリーフケア、死の受容、ACP（アドバンス・ケア・プランニング）、DNARについて理解する。	個人
7	医療の質と医療安全	病院機能の評価、クリニカルパス、医療事故、インシデントとアクシデント、医事紛争と医療訴訟について理解する。	個人
8	医療法と医療体制①	日本の医療体制の変遷、医療法、医療従事者の現状について理解する。	個人
9	医療法と医療体制②	地域医療と連携、救急医療、災害医療について理解する。	個人
10	社会保障と医療経済	社会保障と社会福祉、医療保険制度について理解する。	個人
11	地域保健 成人保険と健康増進	各種検診、健康増進法、健康日本21について理解する。	個人
12	高齢者保健 障がい者福祉、精神保健福祉	老人福祉法、後期高齢者医療確保法、介護保険、在宅医療について理解する。	個人
13	感染症対策①	感染経路、免疫、人獣共通感染症、感染症法について理解する。	個人
14	感染症対策②	予防接種法とワクチン、院内感染対策について理解する。	個人
15	まとめ	総復習	個人

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験　90% 小テスト　10%

【教科書】	公衆衛生がみえる　2026-2027
【参考書】	参考になるものがあれば、その都度紹介する

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	教科書や配布資料の復習をしっかり行ってください

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
リハビリテーション医学 ※ 実務経験のある教員の授業科目	笹島　美沙希 障がい児入所施設・重症児通所支援事業所（理学療法士）6年	笹島

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数（時間）】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	1	後期	15(30)	講義	1

【授業の概要・目的】

根拠に基づく理学療法の実践にあたり，リハビリテーションの評価や治療法など科学的基礎を広く学ぶ．

【学習目標（到達目標）】	【受講して得られる力】
① リハビリテーション医学の特殊性について説明できる． ② 障害を分類し生活機能の評価について説明できる． ③ 機能障害の評価方法について説明できる． ④ 臨床で接する機会の多い疾患の評価方法について説明できる． ⑤ リハビリテーションの治療法について説明できる．	知識・理解

【履修上の注意】 教科書，配布資料を持参すること．

回数	授業のテーマ（担当教員）	授業の内容・目標（使用教材等）	授業方法
1	リハビリテーション医学総論	リハビリテーション医学の特殊性について学ぶ． リハビリテーション医学の定義と対象について説明できる．	個人
2	医療モデルと診断・評価	障害の分類および診断と評価について学ぶ． 国際障害分類と生活機能評価について説明できる．	個人
3	運動障害の評価	運動障害の病態と評価について学ぶ． 筋力，可動域制限などの評価法について説明できる．	個人
4	呼吸・循環の評価	運動負荷上問題となる呼吸と循環の評価について学ぶ． 呼吸と循環の機能の評価法について説明できる．	個人
5	日常生活活動の評価	日常生活活動（動作）の評価について学ぶ． 日常生活活動（動作）の評価法について説明できる．	個人
6	運動療法と運動学習	リハビリテーション治療について学ぶ． 筋力増強や関節可動域改善などの治療法を説明できる．	個人
7	物理療法	物理的エネルギーを利用した治療法を学ぶ． 物理療法の種類とそれぞれの特徴について説明できる．	個人
8	脳血管障害	脳血管障害の病態とリハビリテーションについて学ぶ． 病態とアプローチ法について説明できる．	個人
9	神経・筋疾患	神経・筋疾患の病態とリハビリテーションについて学ぶ． 病態とアプローチ法について説明できる．	個人
10	骨関節疾患	骨関節疾患の病態とリハビリテーションについて学ぶ． 病態とアプローチ法について説明できる．	個人
11	呼吸・循環器疾患	呼吸・循環器疾患の病態とリハビリテーションについて学ぶ． 病態とアプローチ法について説明できる．	個人
12	糖尿病，末梢循環不全	糖尿病，末梢循環不全の病態とリハビリテーションについて学ぶ． 病態とアプローチ法について説明できる．	個人
13	悪性腫瘍，熱傷	がんと熱傷のリハビリテーションについて学ぶ． がんと熱傷のリハビリテーションについて説明できる．	個人
14	再生医療	再生医療とリハビリテーションの関わりについて学ぶ． 神経ネットワークの形成に関わるアプローチについて説明できる．	個人
15	スポーツ外傷，障害者スポーツ	スポーツに関わるリハビリテーションについて学ぶ． スポーツ外傷，障害者スポーツへのアプローチについて説明できる．	個人

期末試験	筆記試験	評価方法	受講態度 60% 小テスト 40%

【教科書】	特に指定しない
【参考書】	特に指定しない

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 各授業テーマの要点を整理する（課題）

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
医療入門 ※ 実務経験のある教員の授業科目	川﨑 萌絵 病院（理学療法士）8年勤務	川﨑

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数（時間）】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	1	前期	15(30)	講義	1

【授業の概要・目的】

医療提供の仕組みやその実際についての理解を深められるように、医療や福祉の分野で実際に医療やケアを提供している医療関係職種や管理者、ケアを提供している実務スタッフなどから、現状と課題など医療専門職としての基礎を学ぶ。

【学習目標（到達目標）】	【受講して得られる力】
① 我が国の医療の体制について概要を説明できる ②医療専門職の役割と求められる能力について説明できる ③医療専門職として備えるべき接遇について理解し、実践できる	知識・理解 チームで働く力 論理的思考力 専門職としてのｽｷﾙ・意識 態度・志向性

【履修上の注意】講義内で使用するため、単語帳の準備をすること.

回数	授業のテーマ（担当教員）	授業の内容・目標（使用教材等）	授業方法
1	理学療法士・作業療法士とは	理学療法士・作業療法士について理解できる 理学療法士の役割について説明できる	個人
2	医療専門職	医療専門職について他職種を理解できる 医療専門職に求められる能力について説明できる	個人
3	現代医療の現場	人々の社会生活と医療の接点を考える 現代医療の現場について概要を説明できる	個人
4	医療の歴史	医療の成り立ちについて理解できる 医療の変遷について説明できる	個人
5	健康と疾病および障害	心身の健康と疾病について学ぶ 障がいの成り立ちと障害受容について説明できる	個人
6	医療専門職の態度・姿勢1	臨床において求められる姿勢・態度について学ぶ 患者に対峙した際の接遇について理解できる	個人
7	医療専門職の態度・姿勢2	症例を通して必要な接遇について考える 症例を通して適切な対応を実践できる	グループ
8	医療面接1	専門職に必要なコミュニケーション・スキルを学ぶ 理学療法士に求められるコミュニケーション技術を実践できる	個人
9	医療面接2	専門職に必要なコミュニケーション・スキルを学ぶ 理学療法士に求められるコミュニケーション技術を実践できる	グループ
10	医療安全1	チーム医療と医療安全について学ぶ 医療事故の要因、予防、チーム医療について説明できる	個人
11	医療安全2	症例を通して医療安全の視点から対応について考える	グループ
12	臨床思考・治療	一連の理学療法の流れについて学ぶ 評価から治療計画の立案までの臨床推論について説明できる	個人
13	医療システム	我が国の医療システムについて学ぶ 医療システム、経済、関連法律について説明できる	個人
14	研究	研究の目的について学び、研究の必要性について考える	個人
15	生涯学習	生涯学習の必要性について理解する 医療者が備えるべき生涯学習能力について説明できる	個人

期末試験	評価方法		
筆記試験	レポート	60%	課題の達成度 20%
	小テスト	20%	

【教科書】	指定しない
【参考書】	講義内で参考図書を紹介する

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	医療に関するニュースや時事について積極的に情報を閲覧すること

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

専門分野

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
基礎理学療法学(1/2) ※ 実務経験のある教員の授業科目	川﨑 萌絵 病院(理学療法士)8年勤務	川﨑

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	1	通年	30(60)	講義・演習	2

【授業の概要・目的】

理学療法士の仕事を理解するために，症例を通して問題解決に導く思考過程を学ぶ.

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①理学療法の対象となる障害について理解する. ②障害の程度を把握するための手段について理解する. ③障害に対して，問題解決の方法を検討することができる.	知識・理解 専門職としてのｽｷﾙ・意識 コミュンケーションスキル 情報活用能力 問題解決力

【履修上の注意】 特になし

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	初回オリエンテーション	講義の進め方，評価方法について理解する. 臨床思考の基本的なプロセスを理解する.	個人
2	症例紹介(整形外科疾患)	整形外科疾患に対する臨床思考の一例を提示する.	グループ
3	症例検討(整形外科疾患) 動作観察	症例の基本動作を観察し，文章として表現する.	グループ
4	症例検討(整形外科疾患) 仮説立案，評価方法の検討	症例がなぜそのような動作になっているのか仮説を立て，その仮説を検証するための方法を検討する.	グループ
5	症例検討(整形外科疾患) 問題点抽出	症例が，日常生活で起こり得る問題点を予測する.	グループ
6	症例検討(整形外科疾患) 介入方法の検討	理学療法士として，問題解決するための方法を検討する.	グループ
7	症例検討(整形外科疾患) 発表	グループで検討した内容について発表する.	個人
8	症例検討(整形外科疾患) 振り返り	発表の内容を基に臨床思考のプロセスを振り返る.	グループ
9	症例紹介(中枢神経疾患)	中枢神経疾患に対する臨床思考の一例を提示する.	グループ
10	症例検討(中枢神経疾患) 動作観察	症例の基本動作を観察し，文章として表現する.	グループ
11	症例検討(中枢神経疾患) 仮説立案，評価方法の検討	症例がなぜそのような動作になっているのか仮説を立て，その仮説を検証するための方法を検討する.	グループ
12	症例検討(中枢神経疾患) 問題点抽出	症例が，日常生活で起こり得る問題点を予測する.	グループ
13	症例検討(中枢神経疾患) 介入方法の検討	理学療法士として，問題解決するための方法を検討する.	グループ
14	症例検討(中枢神経疾患) 発表	グループで検討した内容について発表する.	グループ
15	症例検討(中枢神経疾患) 振り返り	発表の内容を基に臨床思考のプロセスを振り返る.	個人

期末試験	評価方法		
実施しない.		課題の達成度	80%
		受講態度	20%

【教科書】	特に指定しない.
【参考書】	講義の中で適宜紹介します.

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 授業の内容をよく復習しておいてください.

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
基礎理学療法学(2/2) ※ 実務経験のある教員の授業科目	川﨑　萌絵 病院(理学療法士)8年勤務	川﨑

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	1	通年	30(60)	講義・演習	2

【授業の概要・目的】

理学療法士の仕事を理解するために，症例を通して問題解決に導く思考過程を学ぶ.

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①理学療法の対象となる障害について理解する. ②障害の程度を把握するための手段について理解する. ③障害に対して，問題解決の方法を検討することができる.	知識・理解 専門職としてのｽｷﾙ・意識 コミュンケーションスキル 情報活用能力 問題解決力

【履修上の注意】 特になし

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	初回オリエンテーション	講義の進め方，評価方法について理解する. 臨床思考の基本的なプロセスを理解する.	個人
2	症例紹介(整形外科疾患)	整形外科疾患に対する臨床思考の一例を提示する.	グループ
3	症例検討(整形外科疾患) 動作観察	症例の基本動作を観察し，文章として表現する.	グループ
4	症例検討(整形外科疾患) 仮説立案，評価方法の検討	症例がなぜそのような動作になっているのか仮説を立て，その仮説を検証するための方法を検討する.	グループ
5	症例検討(整形外科疾患) 問題点抽出	症例が，日常生活で起こり得る問題点を予測する.	グループ
6	症例検討(整形外科疾患) 介入方法の検討	理学療法士として，問題解決するための方法を検討する.	グループ
7	症例検討(整形外科疾患) 発表	グループで検討した内容について発表する.	個人
8	症例検討(整形外科疾患) 振り返り	発表の内容を基に臨床思考のプロセスを振り返る.	グループ
9	症例紹介(中枢神経疾患)	中枢神経疾患に対する臨床思考の一例を提示する.	グループ
10	症例検討(中枢神経疾患) 動作観察	症例の基本動作を観察し，文章として表現する.	グループ
11	症例検討(中枢神経疾患) 仮説立案，評価方法の検討	症例がなぜそのような動作になっているのか仮説を立て，その仮説を検証するための方法を検討する.	グループ
12	症例検討(中枢神経疾患) 問題点抽出	症例が，日常生活で起こり得る問題点を予測する.	グループ
13	症例検討(中枢神経疾患) 介入方法の検討	理学療法士として，問題解決するための方法を検討する.	グループ
14	症例検討(中枢神経疾患) 発表	グループで検討した内容について発表する.	グループ
15	症例検討(中枢神経疾患) 振り返り	発表の内容を基に臨床思考のプロセスを振り返る.	個人

期末試験	評価方法		
実施しない.	小テスト	60%	
	受講態度	40%	

【教科書】	特に指定しない.
【参考書】	講義の中で適宜紹介します.

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 授業の内容をよく復習しておいてください.

【本講義に関しての質問先】 担当教員　【質問方法】 教員室にて

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
理学療法演習Ⅰ ※ 実務経験のある教員の授業科目		川﨑　萌絵 病院（理学療法士）8年勤務			川﨑
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数（時間）】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	1	後期	15(30)	演習・実習	1

【授業の概要・目的】

理学療法について幅広く学び、理学療法士に必要な技術や能力を理解する。グループワークを通じ、コミュニケーション能力を身につける。

【学習目標（到達目標）】	【受講して得られる力】
①解剖学的知識を用いて、初歩的な理学療法評価を学ぶ	知識・理解
②ADLや基本動作、動作介助などについて理解する	専門職としてのｽｷﾙ・意識
③代表的な補装具について理解する	コミュンケーションスキル
④代表的なスポーツ障害や応急処置（RICE処置）について理解できる	態度・志向性

【履修上の注意】	実技演習と理学療法演習Ⅱの見学も実施します。実習着、実習靴を準備し臨んでください。

回数	授業のテーマ（担当教員）	授業の内容・目標（使用教材等）	授業方法
1	理学療法の概論	理学療法士の様々な働き方を学習する	個人
2	問診	問診に必要なスキルを理解し、ロールプレイを通して身につける	グループ
3	視診・触診	視診・触診の基本的な確認事項を理解し、実際に体験してみる	グループ
4	バイタルサインについて	バイタルサインについて理解できる	グループ
5	肢長・周径・可動域の測定	上・下肢の肢長・周径・可動域の測定ができる	グループ
6	肢長・周径・可動域の測定	上・下肢の肢長・周径・可動域の測定ができる	グループ
7	移動支援（車いす・杖・歩行器）	車いす・杖・歩行器の仕組みを理解し、安全に移動ができる	グループ
8	バランス不良と理学療法	バランス不良の原因を理解し、適切な理学療法を選択できる	グループ
9	疼痛と理学療法	疼痛の種類や特徴を理解し、適切な理学療法を選択できる	グループ
10	認知症と理学療法	認知症の種類や特徴を理解し、適切な理学療法を選択できる	グループ
11	筋力と理学療法	筋力訓練の方法や実施場面について理解できる	グループ
12	歩行と理学療法	在宅で求められる理学療法士の役割が理解できる	個人
13	在宅リハビリと理学療法	在宅で求められる理学療法士の役割が理解できる	個人
14	小テストと解説	総合的な理解度を確認する	個人
15	まとめ	理学療法演習Ⅱへ向けて	個人

期末試験	実施しない	評価方法	レポート 50%	受講態度 10%
			課題の達成度 40%	

【教科書】	特に指定しない
【参考書】	参考になるものがあれば、その都度紹介する

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	配布資料の復習、課題の提出をしっかり行ってください

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
運動療法演習(1/2) ※ 実務経験のある教員の授業科目	笹島　美沙希 障がい児入所施設・重症児通所支援事業所(理学療法士)6年	笹島

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	1	通年	30(60)	演習・実習	2

【授業の概要・目的】

基本的な運動療法の知識と技術を身に着けることを目的とする。また、学生同士で運動療法を実施する中で、人の身体を動かす方法や、注意点なども習得する。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①運動療法の概要について理解し、説明できる	知識・理解
②対象者の状況に応じた運動療法を選択することができる	専門職としてのｽｷﾙ・意識
③各運動療法の目的・効果を対象者に説明し、実施できる	論理的思考力
④運動療法を行う際のリスクについて理解し、配慮しながら実施できる	態度・志向性
	統合的学習体験

【履修上の注意】特になし

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	運動療法総論	運動療法の種類、目的、効果、禁忌などを学ぶ 運動療法を行う上で、必要な標準予防策を身に着ける	個人
2	関節可動域制限に対する運動療法① 関節可動域運動(上肢)	上肢・下肢・体幹の各関節に対して関節可動域練習を行う 四肢を動かす際のハンドリングやendfeelを体験し、身体に触れる際の注意点や禁忌事項を理解し、実施できる	グループ
3	関節可動域制限に対する運動療法② 関節可動域運動(上肢)		
4	関節可動域制限に対する運動療法③ 関節可動域運動(下肢)		
5	関節可動域制限に対する運動療法④ 関節可動域運動(下肢)		
6	関節可動域制限に対する運動療法⑤ 関節可動域運動(体幹)		
7	関節可動域制限に対する運動療法⑥ ストレッチング(上肢)	上肢・下肢・体幹の各筋に対してストレッチングを行う ストレッチングの目的、効果、種類について理解する 安全なストレッチングの方法を理解し、実施する	グループ
8	関節可動域制限に対する運動療法⑦ ストレッチング(上肢)		
9	関節可動域制限に対する運動療法⑧ ストレッチング(下肢)		
10	関節可動域制限に対する運動療法⑨ ストレッチング(下肢)		
11	関節可動域制限に対する運動療法⑩ ストレッチング(体幹)		
12	関節可動域制限に対する運動療法⑪ mobilization総論	mobilizationの目的、効果、種類について理解する mobilizationの適応と禁忌を理解し、実施する	グループ
13	関節可動域制限に対する運動療法⑫ mobilization手関節		
14	関節可動域制限に対する運動療法⑬ mobilization足関節		
15	まとめ	前期で学習した部分の実技テストを行う	個人

期末試験	実施しない	評価方法	実技試験　80% 受講態度　20%

【教科書】	標準理学療法学 専門分野 運動療法学総論 第5版(医学書院)
【参考書】	講義内で紹介します.

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】解剖学、運動学の復習、骨の名称や筋の走行を理解する

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
運動療法演習(2/2) ※ 実務経験のある教員の授業科目	増子　就斗 病院(理学療法士)14年勤務	増子

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	1	通年	30(60)	演習・実習	2

【授業の概要・目的】

基本的な運動療法の知識と技術を身に着けることを目的とする。また、学生同士で運動療法を実施する中で、人の身体を動かす方法や、注意点なども習得する。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①運動療法の概要について理解し、説明できる ②対象者の状況に応じた運動療法を選択することができる ③各運動療法の目的・効果を対象者に説明し、実施できる ④運動療法を行う際のリスクについて理解し、配慮しながら実施できる	知識・理解 専門職としてのｽｷﾙ・意識 論理的思考力 態度・志向性 統合的学習体験

【履修上の注意】特になし

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	協調運動障害に対する運動療法① バランストレーニング	運動療法の種類、目的、効果、禁忌などを学ぶ 運動療法を行う上で、必要な標準予防策を身に着ける	グループ
2	協調運動障害に対する運動療法② バランストレーニング		
3	筋力低下に対する運動療法① 筋力増強運動総論	上肢・下肢・体幹の各筋に対してストレッチングを行う ストレッチングの目的、効果、種類について理解する 安全なストレッチングの方法を理解し、実施する	グループ
4	筋力低下に対する運動療法② 筋力増強運動(上肢)		
5	筋力低下に対する運動療法③ 筋力増強運動(上肢)		
6	筋力低下に対する運動療法④ 筋力増強運動(下肢)		
7	筋力低下に対する運動療法⑤ 筋力増強運動(下肢)		
8	筋力低下に対する運動療法⑥ 筋力増強運動(体幹)		
9	歩行障害に対する運動療法① t-cane、歩行器	歩行障害に対して歩行介助の練習を行う 松葉杖やt-caneなどの基本的な歩行補助具の使用方法を理解し、歩行練習を実施する	グループ
10	歩行障害に対する運動療法② 松葉杖		
11	呼吸障害に対する運動療法	呼吸器障害に対して呼吸介助を行う 体位肺痰やスクイージングの方法を理解し、実施する	グループ
12	アスレティックリハビリテーション	アスレティックリハビリテーションの目的、効果、方法、種類を学び、実施する	グループ
13	持久力低下に対する運動療法	有酸素運動の目的、効果について理解する トレッドミルや自転車エルゴメータを使用して持久力トレーニングを行う 持久力向上に効果的な負荷量について理解する	グループ
14			
15	まとめ	後期で学習した部分の実技テストを行う	個人

期末試験	評価方法		
実施しない	実技試験	80%	
	受講態度	20%	

【教科書】	標準理学療法学 専門分野 運動療法学総論 第5版(医学書院)
【参考書】	講義内で紹介します.

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】解剖学、運動学の復習、骨の名称や筋の走行を理解する

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて